

みんな生き生き！ 学級集団づくり

学級は、すべての教育活動の基盤であり、学級が安定することで、十分な教育効果が現れます。

そのためには、教師は、誠意と愛情をもって子供と向き合い、日々の研鑽を積みながら自らの力量を高め、望ましい学級集団づくりに努めなければなりません。

本リーフレットは、そのための指針です。日々の教育実践の中で、積極的に活用してください。

1. 「学級集団づくり」とは
2. 学級目標は子供を導く「道しるべ」
3. 子供とともに作る1年間のドラマ
4. 安全で安心できる学級集団づくり
5. 教師の基本スキル
6. 1日の流れ
7. 学びのためのステージ
8. 保護者や家庭との連携



1

「学級集団づくり」とは

～ 子供が成長するための「しかけ」と「つながり」～

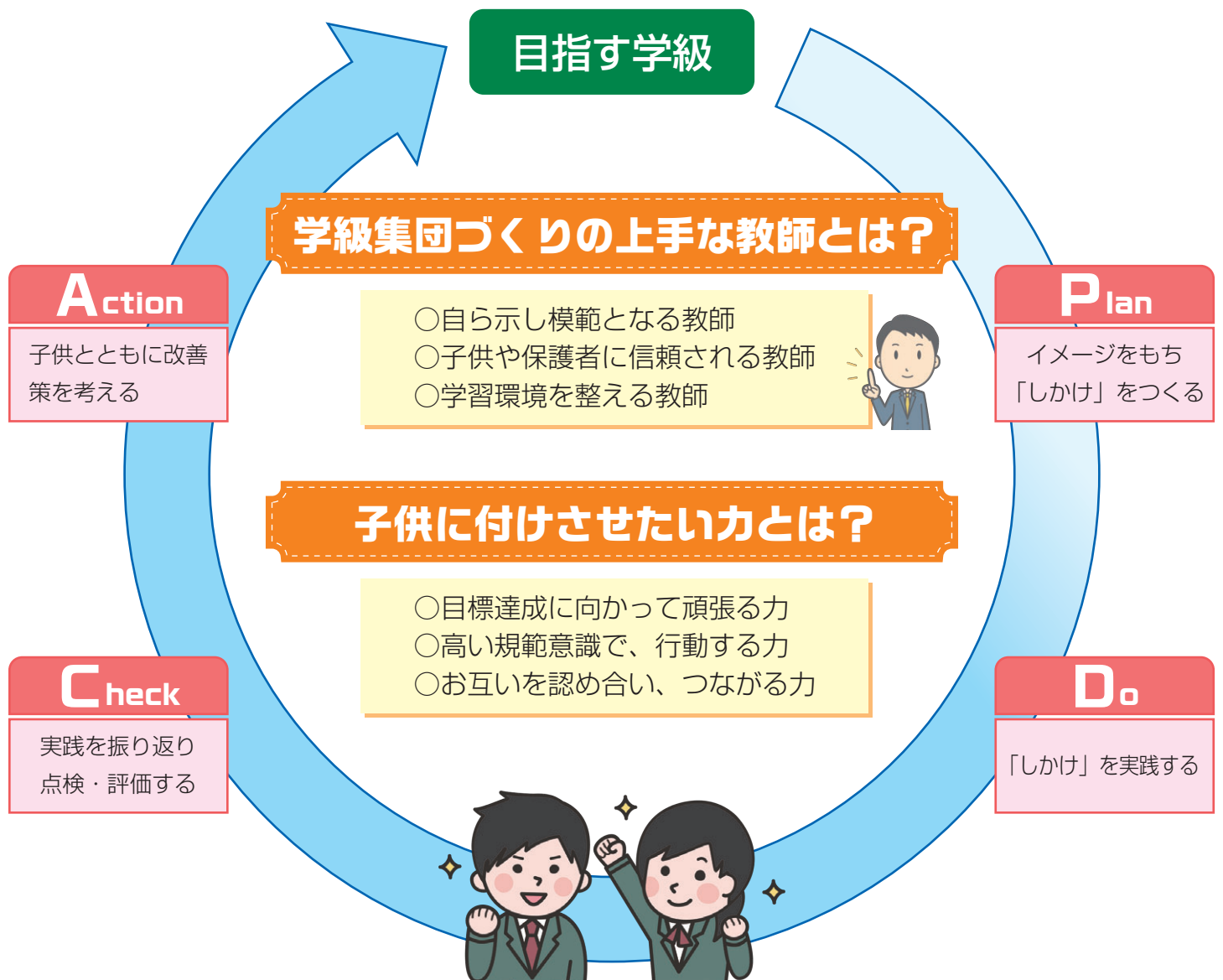
今日の学校現場では、いじめや不登校をはじめとする様々な教育課題があり、これらの要因として、規範意識の低下や価値観の多様化、さらにはネット社会における人間関係の希薄さなどにより、子供たちが良好な人間関係をうまく築けなくなっていることなどが挙げられます。

学級には、個性や家庭環境などが異なる子供たちが集まっています。様々な教育課題の解決について語るとき、子供たちの人間関係を抜きにはできません。そこで教師は、子供たちに目標や行動の規準を明確に示し、子供を理解し、学級生活の様々な環境を整え、子供同士の人間関係をつなぐための「しかけ」を、意図的・計画的・組織的に実践しなければなりません。

子供たちの規範意識や帰属意識を高め、相手を尊重し思いやる心を育み、自主自律の精神が培われるよう、目指す学級をイメージした学級集団づくりを実践しましょう。



「しかけ」・・・学級の様々な活動において、目標を実現させるために工夫された手法や取組。



2

学級目標は子供を導く「道しるべ」

～ 子供を主人公に創造する学級 ～

学級とは、様々な可能性をもった子供たちが集い、教師や仲間とのかかわりの中で、個性を認め合い、支え合いながら成長する学びの場です。目指す学級のイメージをもち、目標の実現に向けたPDCAサイクルの取組が大切です。



学級目標をつくる

【ポイント】

- 学級目標は、様々な個性をもった子供たちが、合意形成しながら成長するための「道しるべ」です。
- 目標の実現に向けた1年間の見通しをもち、「しかけ」を考え、意図的な実践となるよう設定します。

【決め方】

- 教師は学校の教育目標、学年目標、子供の実態などをふまえ、どのような学級にしたいのかイメージをもち、子供に伝えます。
- 新しい学級に子供たちが慣れてきたら、教師と子供たちとの話し合いにより決めます。

PDCAサイクルで学級目標を実現させる

目標の設定

P : 計画

D : 実践

C : 点検・評価

A : 改善

Plan

計画

【目指す学級のイメージを描く】

- 子供の意識の中にも描かせる。
- 何を頑張ればよいのか、子供に具体的に示す。

【実態把握をする】

- 子供との会話の中でつかむ。
 - 個性、人間関係、悩みや不安 など
- 家庭訪問でつかむ。
 - 家庭での様子、子育ての苦労話、担任への要望 など

【「しかけ」を考える】

- 次の視点を参考に「しかけ」を考える。
 - 学級全体で一つの目標に向かって頑張れること
 - 力を合わせなければならないこと
 - 努力しなければならないこと
 - ゴールが見えていること
 - 達成したときにみんなで感動できること など



スモールステップを意識することが大切です。

D。

実践

- 計画に基づき、動機付けを図りながら「しかけ」を実践する。

Check

点検・評価

- 実践を振り返り、計画に沿って進行しているか点検・評価する。
- 年度末だけでなく、学期ごとや月ごとなど、スモールステップを意識して、こまめに点検・評価する。
- 子供とともに振り返る。

Action

改善

- 点検・評価した計画について、子供とともに考え改善する。

子供たちは、教師や仲間との新たな出会いから1年間のドラマをスタートさせます。学級に心地よさを感じ、仲間との関係性を深めながら、よりよい学級集団へと構築していくドラマには、教師の様々な場面での仕事があります。



子供との出会い

- 新たな出会いでは第一印象が肝心です。笑顔であいさつし、温かい雰囲気をつくります。
- 机の傷や落書き、ロッカーの汚れなどがないように、最も美しい状態に整えておきます。

学級びらき

- どのような学級にしたいか、分かりやすい言葉で語り、学級だよりなどで保護者にも伝えます。
- ルールを守る、いじめを許さないなどを、教師の言葉で熱意をもって伝えます。

人間関係づくり

- 4月当初は、簡単なゲームなどによるアイスブレイクで、緊張感をほぐします。
- 構成的グループエンカウンターなどを取り入れ、良好な人間関係を築きます。

学級の仕事

- 当番活動は学級で生活する上で必要な仕事であり、係活動は生活をよりよくするための仕事です。どちらも、学級のみんが経験することにより、公平感を保つことができます。
- 主体的な活動となるためには、褒められる、感謝される、満足感や存在感を得る、活動そのものが楽しいなどの動機付けが必要です。

(例) 「学級新聞係」
「落とし物係」 など



座席・班

- 座席には、スクール形式、グループ形式、コの字形式、口の字形式などがあり、子供の実態や目的に応じて配置します。
- 班には、生活班や学習班などが考えられ、子供たちにどのような力を付けさせたいか、ねらいを明確にして編制します。
- 身体的条件や人間関係などを考慮しながら、教師が責任をもって決めることも考えられます。
- 席替え・班替えは、様々な人間関係を体験させることができる機会です。

集会活動・行事

- 学級の集会活動や学校行事は、日々の学校生活を活性化させ、学級をまとめる良い機会です。達成感を味わわせるとともに、折り合いを付ける力、自主性、人間関係を構築する能力などが育つよう、計画的に取り組みさせます。
- 全員がそれぞれの役割について責任をもち、目標に向けて協力することを理解させます。
- 行事の中では、事故防止に最大限の配慮をするとともに、辛さや苦しさを乗り越えた喜びを味わわせます。
- 行事が終わったら、次の活動の意欲につながるまとめを行います。教師は、子供の成長を認め適切な評価をします。

長期休業

- 自分自身を見つめ直し、大きく飛躍させる大切な自己形成の時間です。自ら目標達成や課題克服に向けて、計画的・意欲的に取り組ませます。
- 子供との関係が希薄にならないよう、家庭訪問や家庭連絡をします。
- 長期休業明けの欠席は、直ちにに対応します。また子供の表情や言動の変化にも注意します。



学級じまい

- 自分自身を振り返り、苦楽とともにした仲間や教室などに感謝の気持ちを表す時間です。
- 文集や寄せ書きなどをつくることで、1年間を振り返るとともに、思い出となる作品づくりができます。
- 教室を美しく整えることで、新たな学年や進学先に向けて、意欲を湧かせる機会とします。
- 感動的な詩を用意したり、思い出に残るイベントを企画したりして、この学級でよかったと思える終幕にしましょう。

社会や家庭の変化に伴い、生徒指導にかかわる課題も多様化・複雑化する中で、問題行動などの未然防止と子供の健全育成を図るためには、子供たち一人一人の規範意識を高め、社会的自立を目指した取組を進めていくことが重要です。

そこで、教師は、学校生活のあらゆる場において、ルールやマナーを守ることや人としてやってはいけないこと、場に応じた望ましい行動をとることなどを指導することが求められています。

心からルールやマナーを守ろうとする気持ちが育つような働きかけをとおして、よりよい学級集団を育てていく必要があります。



規範意識を育てるポイント

- ルールは、子供にとって授業や学校生活を楽しく有意義にするものであり、円滑な社会生活を送るための行動の手掛かりとなるものであることを理解させます。
- 望ましい姿を明確に示すとともに、ダメなものはダメであることをきちんと指導します。
- 子供たちの人間関係が良好な場合には、学級集団全体を褒めます。
- 学級集団の状態が望ましくない場合には、話し合ったり、考えたりすることを繰り返し、自分の言葉に責任をもたせます。



これらのリーフレットも参考にしましょう

規範意識を育てる場面

授業

～ 基本的な学習ルールの定着を図る～

- ・ 授業準備、チャイム着席、話す、聞くなどの基本的な学習ルールの定着を図ります。
- ・ 道徳の授業での、話し合いや自分を見つめる活動をおして、ルールを守る意義を子供たち自身に考えさせます。



- ・ 子供たちがルールを理解し、授業規律が定着することで、学習理解が進み、学びが深まります。
- ・ 教科などの授業や日常生活において実践することにより、望ましい行動が身に付きます。

学校生活

～ ルールやマナーを繰り返し確認する～

- ・ ルール（校則、当番、係活動など）や、マナー（あいさつ、礼儀など）を繰り返し指導します。
- ・ 学級活動や学校行事などにおいて、目標の実現に向けた集団の高まりの中で指導します。



- ・ 学級に対する安心感が子供に生まれ、子供同士の信頼関係が築かれます。
- ・ 帰属意識が育ち、学級のみんなで協力して頑張ろうとする意欲が高まります。

ルールづくり

～ 話し合いをおして、お互いを理解し認め合う～

- ・ 学級活動で、話し合う活動を積極的に取り入れます。
- ・ 学級で問題が発生した場合、話し合いにより新たなルールをつくります。



- ・ ルールを自分たちのものとして大事にし、ルールを守ろうとする主体性が生まれます。
- ・ 話し合いを大事にする態度が養われます。
- ・ 自己有用感と教師への信頼感が得られます。

教師の心構え

言葉遣いに気を付ける

- ・ 教師自身が「～です」「～ます」「～さん」などの丁寧な言葉遣いをします。
- ・ 時と場に応じた適切な言葉遣いや声量に気を付けます。
- ・ 職員室内の教職員同士の会話でも、内容や言葉遣いに気を付けます。

分かりやすく指示する

- ・ 指示は、短く簡潔に行います。
- ・ 複数の指示をするときは、順序立てて説明するなど、指示の仕方を工夫します。
- ・ 子供が指示されたことが理解できているか、確認しながら話します。

時間を守る

- ・ 始業のチャイムで授業を始め、終業のチャイムで授業を終えます。

模範となる教師

身なりや身のまわりを整える

- ・ 服装、頭髮、身だしなみは、いつも清潔にします。
- ・ 場や目的に合った服装を、きちんと着こなします。
- ・ 身のまわりの整理整頓に気を配ります。

あいさつをする

- ・ 誰に対しても、積極的に、さわやかなあいさつをします。



子供とのふれあいを大切に

- ・ 子供とすれ違うときは、目を合わせ、声をかけ、笑顔を送ります。
- ・ 作業中に子供に声をかけられたときは、手を止めてしっかりと向き合って話を聞きます。

信頼される教師

子供の変化に気付く

- ・ 急激な学力の低下などの学業成績の変化
- ・ 乱暴な言葉遣いや粗暴な態度などの言動の変化
- ・ 日記や作品などの表現物の変化
- ・ 孤立化するなどの交友関係の変化

子供を理解する

- ・ 外面（学力、体力、人間関係、家庭の様子）だけでなく、内面（言動の背景にある思いや考え、不安や悩みなど）にも理解を深めます。
- ・ 日頃から笑顔で声かけを行い、話をしっかりと聞き、子供とのつながりを深めながら把握します。
- ・ 日記や生活ノートには、励ましのコメントを入れるなど、本音が語りやすくなる雰囲気づくりをします。

子供に信頼感を与えるのは、教師の次のような姿です。

- ・ しっかりと話を聞いている姿
- ・ きちんと授業をしている姿
- ・ できるまで教えている姿
- ・ 公平に接している姿
- ・ 本音を語っている姿 など



褒めることとは？

○褒める（行為の価値を認めて伝える）

- ・うなずく、ほほえむなど、小さなことでも子供にとってはうれしい反応です。
- ・他の子供と比較せずに、子供の行為を具体的に褒めます。
- ・当たり前に行っていることもきちんと評価し、褒めます。
- ・子供のよさを本人に伝えるだけでなく、学級だよりに掲載したり、保護者に連絡したりします。
- ・みんなの前で褒める、個別にこっそり褒めるなど、まわりの子供を意識した褒め方を考えましょう。



褒めるプロを目指す



Level 1

子供は褒めて育てるより、叱って育てる方がよい？

Level 2

褒めて育てることは大切であるが、なかなか褒めることができない。

Level 3

一生懸命褒めているが、子供が褒めて欲しい場面で褒められない。

Level 4

子供が褒めて欲しい場面で、タイミングよく褒めることができる。

更にその上は…？

**プロの教師なら、ここで満足せずに
プロの褒め師を目指そう！**



Level 5

褒めることができる場面を意図的に作りだして、その行為を褒める。

叱ることとは？

○叱る（よくない点を指摘して説明し、どうすればよいのかを理解させる）

- ・怒りなどの感情をそのまま伝えることは、「叱る」ではなく「怒る」です。
- ・過去のことはもち出さず、短く、事実に基づいて叱ります。
- ・むやみに人前で叱ったり、人格を否定したり、追い詰めたりする叱り方をしてはいけません。
- ・生命にかかわること、心と体を傷つけること、再三の注意にも改善されないことには、毅然とした態度で叱ります。
- ・叱った後は、フォローも忘れずに行い、人間関係を保ちます。



教師が正しい褒め方・叱り方を身に付けることで、子供は教師を信頼します。



規範意識や帰属意識は、日々のこまめな指導の積み重ねにより高まります。日々繰り返される学校生活の日課の中で、それぞれの目的を理解し、一つ一つのことに粘り強く取り組みましょう。



始業前



- 教室の換気をして、落書きや破損などの異状がないか確認します。
- 校門では、笑顔で明るくあいさつや声かけをしながら、子供たちの表情を確認します。

朝の会



- 今日一日の学校生活を見通すための会であり、「元気に交わすあいさつ」「出席状況の把握」「健康観察」「服装や生活態度の把握」「担任の話」を基本に、「1分間スピーチ」「今日は何の日」「昨日見たよい姿」などの紹介も行い、明るく温かい雰囲気の中で1時間目の授業が始まるよう努めます。

昼休憩



- 子供たちと一緒に遊ぶことにより、子供との心の距離を縮めます。
- 子供たちの遊びの様子から、人間関係や特性などを把握します。

掃除



- 早くきれいに上げるための手順を具体的に示すとともに、全員で協力することの大切さを指導します。
- 清掃用具の安全で正しい使い方や、正しい保管の仕方を指導します。
(例) 具体的な保管例を写真で掲示
- 教師が率先して行い、子供たちとの一体感や学級の雰囲気づくりに役立っています。

始業前

朝読書

朝の会

1時間目

2時間目

ロング休憩

3時間目

4時間目

給食

昼休憩

掃除

5時間目

6時間目

帰りの会

放課後

朝読書



- 「毎朝」「自分が選んだ本を」「みんなで」読むことを原則に実施し、読書の楽しさを味わわせます。
- 教師も一緒に読み、落ちついた雰囲気です学校生活が始められるよう学習環境を整えます。

給食



- 給食当番が公平に分担して、過不足なく適切な分量で配膳できるよう指導します。
- きれいに食べるために、後片付けのことも考えた食べ方、残さない工夫、ゴミの分別について指導します。
- コミュニケーションをとりやすい机の配置や、話題の提供、食事時間の確保など、楽しく食べられるよう工夫します。
- 事故(やけど、アレルギーなど)の防止や衛生管理に留意します。

帰りの会



- 帰りの会では「子供による振り返り」「係からの連絡」「担任の話」「あいさつ」を基本に、「歌」「スピーチ」などの変化も入れながら、明日のめあてや意欲につながる会にします。

放課後



- 教室内を見回り、掲示物や備品などの異状や忘れ物がないか確認します。

こんな場合は・・・

欠席をしたら・・・

- 欠席の理由を明らかにし、適切な対応を早期に実施することが大切です。
- 欠席理由が気になる場合や不明確な場合は、早急に保護者と連絡をとり、家庭訪問をするなど、適切に対応します。
- 支障がなければ欠席理由を級友に知らせ、休んでいることを気にかけてさせることで、子供たちの学級への帰属意識を高めます。
- 連絡カード（翌日の予定、準備物、宿題、配付物、コメントなどを記したものを、その日のうちに渡せるよう準備します。（ただし、子供がメッセージを記す場合は、教師が事前にチェックをします。）
- 欠席明けには笑顔で迎え入れ、授業の補充確認をします。



体調不良を訴えたら・・・



- 養護教諭などと連携しながら健康状態を確認し、保護者に連絡をします。
- 早退させる場合は、子供だけで下校をさせないようにします。



これらのリーフレットも
参考にしましょう

遅刻をしたら・・・

- 通院などのやむを得ない事情を除き、遅刻はよくないことを理解させます。
- 遅刻をした場合には、理由をきちんと確認し、保護者に連絡します。
- 遅刻の原因に応じた対策を、保護者も含めて話し合います。
 - ・本人に関する問題（怠け、反抗、体調不良 など）
 - ・学校に関する問題（苦手な教科・科目、いじめ など）
 - ・家庭に関する問題（生活リズムの崩れ、児童虐待 など）
- 遅刻の放置は常習化するだけでなく、集団化する恐れがあります。担任一人で対応するのではなく、生徒指導部や管理職と連携して組織的に対応します。

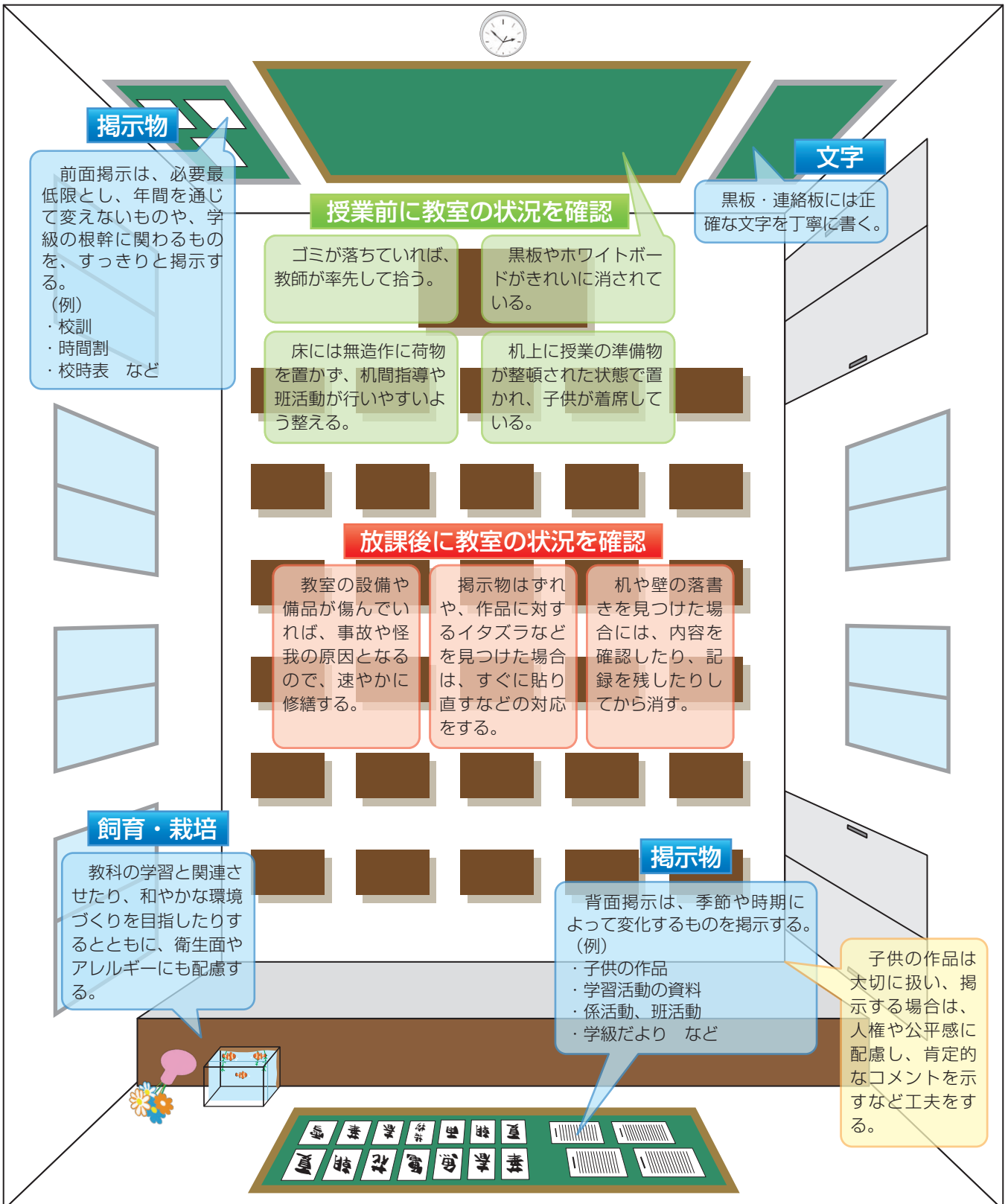


忘れ物・宿題忘れをしたら・・・



- 性格的要因（慌て者タイプ、のんびりタイプ）による忘れ物の場合は、忘れ物をしなかったときにしっかり褒めます。
- 環境的要因（家庭的な理由）による忘れ物の場合は、まず保護者による前夜の点検などを依頼し、学年が上がるにしたがって、過干渉にならないよう相談しながら指導します。また、「何か困っていることはない？」とやさしく言葉をかけたり、スクールソーシャルワーカーなどと連携したりしながら、温かく接して状況を確認します。
- 連絡帳をしっかりと書く、机やロッカーを整理整頓するなど、忘れ物をさせない指導をきちんと行います。
- 忘れ物・宿題忘れの指導には、罰を与えたり、とがめ役となる子供をつくったりしないよう留意します。

教室は、子供の学びの足跡を残す場であり、美しく整えられた教室環境は学びの質を高めます。教師の思いを含め、それぞれに工夫を凝らすことは大切ですが、学年や学校全体でレイアウトを合わせて、統一感を出すことにより、学年や学校全体の取組につながります。



保護者とつながるとは、保護者からの信頼を得ることです。普段から子供の様子をしっかりと把握し、情報を共有し合い、開かれた学級経営を実践することは、保護者に安心感を与えます。また、丁寧に謙虚な姿勢で対応することにより、保護者が学校に協力しようとする意欲が湧き、学校教育への参画意識が高まります。



つながる

- ・よいことをしたときの電話連絡や、気になることがあったときの家庭訪問など、積極的に子供の様子を発信することで、保護者とのつながりが深まります。
- ・連携を図ることと、慣れ合いになることとは違います。

保護者会

- ・充実した話し合いになるよう、テーマや運営方法を工夫し、参加者の増加につなげます。
- (基本内容例)
 - 「学級経営方針」
 - 「学習状況」
 - 「学習評価」
 - 「家庭学習」 など
- (工夫例)
 - 「効果的な家庭学習」
 - 「10点アップの勉強法」
 - 「子供と携帯電話」 など
- ・具体例を示しながら、分かりやすく説明します。



このリーフレットも参考にしましょう

緊急時における保護者対応

- ・子供に問題があった時には、すぐに保護者へ連絡をとり、直接会って話ができるようにし、家庭訪問や学校召致をする場合は複数名で行い、適切に対応します。
- ・説明や話し合いについては、正確な事実関係を把握した上で、管理職などと一緒に複数名で対応することを基本とします。
- ・迅速かつ真摯な態度で対応します。
- ・問題解決後も、継続して連絡を取り合うなど、保護者に安心感や信頼感を与える対応を心がけます。

家庭訪問・個別面談

- ・子供のよいところを、普段からノートなどにまとめておき、しっかりと伝えます。
- ・学校での友人関係や、学習状況について話します。
- ・家庭訪問は時間厳守です。トラブルなどで遅刻をするときは必ず電話連絡をします。
- ・家庭環境などの情報は、事前にできる限り把握し、その上で、話の中から家庭の様子や生活の様子を聞き取ります。
- ・学校に対する意見や要望は即答せず、管理職などに報告します。
- ・子供についての悩みなど、保護者の相談には丁寧に対応し、対応後のフォローも継続して行います。

学級だより

- ・子供と子供、教師と子供、保護者と学級などをつなぐアイテムです。子供の意見や考えを積極的に取り上げます。
- ・保護者に対して、教師の考えや願い、子供の思い、学級での出来事や問題点を伝えることで、理解と協力が得られます。
- ・子供のよさを積極的に紹介することで、子供に自己肯定感を培うことができます。
- ・読み手に喜ばれる紙面づくりに努めます。
- (例)
 - 「日常生活の小さな話題」
 - 「初めての定期考査」 など
- ・発行前には、管理職の指導や確認を受けます。
- ・掲載する資料や画像には、著作権や肖像権などがあるので十分留意します。

和歌山県教育委員会作成



不登校を生まない
集団づくり



見逃さないで!
子どものSOS



いじめ問題対応
マニュアル/ハンドブック



道徳読み物資料集
心のとびら/希望へのかけはし



小さなサインに気づいて



こんなこと、あなたの学校
ではできていますか?



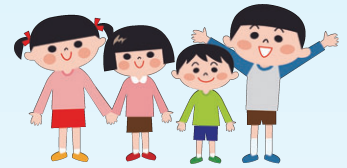
どの子も「わかる・できる」
授業づくりのアイデア



児童生徒の心の育ちを
支援するために

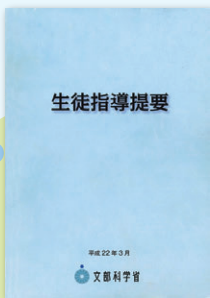
よりよい学級集団づくりを実践しましょう

～これらの資料は各Webサイトからダウンロードできます～

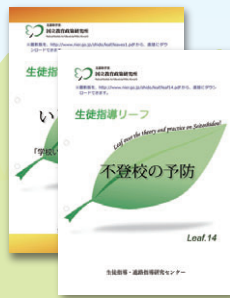


(例)

文部科学省作成



生徒指導提要



生徒指導リーフ



特別活動
小学校編/中学校編



自分に気付き、未来を築く
キャリア教育

国立教育政策研究所作成

みんな生き生き! 学級集団づくり

平成28年3月

発行：和歌山県教育庁学校教育局義務教育課

TEL 073-441-3661 / FAX 073-441-3652
〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地



再生紙を使用し、環境に優しい
植物油インキで印刷しています。